

伊藤公一名誉教授：人と学問

齊 藤 壽 彦

伊藤公一先生は1975年4月に千葉商科大学専任講師に任用されて以来、助教授、教授を経て、35年の長きにわたって専任教員として本学の教育、研究、学内教学行政に尽力されてこられました。昨年に名誉教授となられ、非常勤講師、客員教授として本学学生の指導に当たられ、現在も引き続いて客員教授として大学院で授業を担当されています。また、現在、財団法人商工総合研究所理事としてもご活躍をされています。

伊藤先生は1940年に名古屋に生まれ、5歳のときにお父様がビルマ戦線で亡くなられ、お母様お一人が家計を支え、少年期時代に大変な苦勞をされたようです。その柔なお姿からはとてもそのような苦勞をされたとは思われません。

一橋大学では中小企業研究の権威、山中篤太郎教授のゼミで中小企業研究の手ほどきを受け、1963年に同大学を卒業された後すぐに米国のミシガン大学大学院に留学されました。さまざまなバイトで英会話力を磨き、これが後年、国際会議や海外での講義に役立ったということです。国際人としての素養はすでにこの時に身につけられたようです。

お母様が経営されていた小企業が経営危機に陥ると急遽帰国され、企業整理を行われました。その時に筆舌には尽くせない大変苦しい体験をされたことは疑いありません。その苦勞は他人を思いやる人格者としての伊藤先生を作り上げることになったと思われまます。

会社整理を機に研究者を志され、退官された山中博士の勧めで、1967年に慶応義塾大学大学院経済学研究科修士課程の伊東岱吉教授に師事されるようになり、中小企業研究を本格的に始められました。私は翌年に同課程で伊東教授のもとで学ぶこととなり、その時に初めて伊藤公一先生にお会いし、爾来40年以上の長きにわたって伊藤先生とおつきあいをさせていただいています。威張らず、権力におもねず、教養豊かな伊藤先生とお話しをするときはいつも心が弾みます。伊藤先生には一度

も裏切られたことがなく、幅広い観点からの貴重な助言をしばしば受け、私は常に伊藤先生を心から信頼してきました。伊藤先生は人柄が温和で誠実で誰からも敬愛されています。

伊藤先生は1974年に慶應大学大学院博士課程を出られた後、1975年に千葉商科大学専任講師に就任されました。前年に本学専任講師に任用されていました私は、それ以来、先輩、友人であるとともに同僚として伊藤先生と親しく接することとなりました。伊藤先生は1978年に本学助教授、1985年に教授となりました。教育面では流通政策などの授業やゼミナールなどの授業を担当され、また大学院の授業も担当され、大変熱心に学生を指導されて来られました。

本学における教学行政面では、1993年から2年間の就職指導部長、1995年から2年間の千葉学園評議委員のほか経済研究所長といった役職における活動を通じて本学に貢献されています。

研究面では大学の学部時代からおよそ50年に亘って中小企業、とくに流通分野の中小企業を中心に研究が続けられています。

研究を始められた当時、中小企業の研究は製造業が主流でしたが、指導教授の助言もあり、比較的研究に乏しい流通分野の中小企業、すなわち中小商業に焦点を当てて研究することにされました。折しも大型店の進出が盛んになり、中小商店街の衰微が進み、いわゆる大型店問題が各地で生じた時期でしたので、まことに時宜を得た研究であったと思います。研究の手法は、国内の問題の状況のみに目を奪われることなく、むしろ、先進国における問題の対処の在り方に調査・研究の重点を置かれ、とくに、状況が日本と共通する点が多い英国を集中的に研究されました。1988年から1年間のロンドン大学・ケンブリッジ大学への大学派遣留学によりこの研究は大いに進捗しています。日英の比較研究が注目された結果、94年に参議院国土・環境委員会において参考人として意見陳述を行い、都市計画と大型店関連対策の一体化の必要性を説かれています。また日英の比較研究と並行して日本の中小商業・商店街の在り方の研究も進められ、永らく商店街近代化研究会（全国商店街振興組合連合会主催）の委員（のちに委員長）のほか、千葉県大規模小売店舗立地審議会委員（のちに会長）を務められました。これらに関するすぐれた論文を書かれています。さらに、流通分野の中小企業研究に主力を置きつつも、工業を含むあら

ゆる分野の中小企業の研究にも励まれ、その成果を国内外に発表されています。伊藤先生は多数の著書、論文を発表されていますが、その内容につきましては割愛させていただきます。

伊藤先生は、国内における口頭での発表の場としての日本中小企業学会、日本学術振興会第118委員会でも活躍されました。

こうした研究活動の積み重ねが評価されて、1998年から2001年まで、日本中小企業学会会長に就任されています。また、中小企業商工組合中央金庫から、81年と86年の2回、中小企業研究奨励賞を受賞（共同受賞）されています。また、2004年から12年までの間、日本中小企業国際協議会議長として国際交流に尽されました。このほか、日本の若手中小企業経営者の海外研修にコーディネーターとして欧米等を4回にわたって視察・講義され、その功績から中小企業団体中央会より2度感謝状を授与されました。2010年には日本学術振興会第118委員会名誉委員に推挙されています。

伊藤先生は海外での研究発表等の活動も行われており、中小企業国際会議で3回（1984年アムステルダム、1995年テルアビブ、2008年ベルファスト）、日本を代表して研究発表されました。そうした経験が評価されて、同国際会議の分科会の議長を数回務められました。トロント（99年）、アムステルダム（02年）、ワルシャワ（04年）、東京（07年）での大会のことです。また、台湾政府招聘による集中講義もされました。すなわち、1991年5月に1週間の連続講義（英語）を実施されています。

また、伊藤先生は社会的活動においてもめざましい貢献をされており、国および自治体の行政に永年に亘って関与され、千葉県大規模小売店舗立地審議会会長（本年5月まで）などの要職についておられます。

中小商業政策研究の大家である伊藤先生の略歴および業績につきましては詳しくは太田三郎先生がまとめられました後掲の一覧表をご参照下さい。

伊藤先生のご趣味は中学生以来のクラシック音楽鑑賞です。特に大学時代から現在までオペラ観賞に熱中されています。休暇・留学中や国際会議・海外調査の合間を縫って世界の主要オペラハウスを巡ってこられました。国内外で鑑賞した演目数は100をはるかに超えています。往年の名歌手、M・カラス、テバルディ、D・モナコ、シュワルツコップ、サザーランド、T・ゴッピ等の舞台を愉しんだのは最

良の思い出だということです。まことにうらやましいかぎりです。

伊藤先生は本学の教育，学内教学行政，研究，学会活動，社会的活動に多大なる貢献をされてこられました，その成果を他人に誇るということは一切なく，きわめて謙虚でした。そのためにそのことをご存じない方が学内外に多数おられます。またその人格識見は大変すばらしいということを多くの人に知ってもらいたいと私は日頃考えていました。そこでこの場を借りまして伊藤先生のご功績や高邁なお人柄について記させていただきました。

私はこのような伊藤先生に知り合えたことをとても幸せに思っています。伊藤先生は現在もとてもお元気で聡明です。伊藤先生には，これからも，生活を楽しまれるとともに，大所高所から私達にご助言，ご教示下さいますようお願いいたします。